

編集後記：この原稿は、フィリピンのルソン島北部にある Laoag という街の、空港に隣接した測候所で7月に書いています。この地名は「ラオアグ」と仮名書きされることが多いのですが、「天気」の読者には地元での発音に近い表記「ラワーグ」のほうがピンと来る人もいらっしゃるのではないのでしょうか。ラジオの気象通報で、ルソン海峡（ラジオ用天気図用紙だとバシー海峡とバリンタン海峡の間）の離島にある観測所「バスコ」からの入電が無いときに限り代替として読み上げられるという、知る人ぞ知る気象官署です。とはいえ、最近では、気象通報の原稿を気象庁のウェブページで確認することができるようになり、また、天気図そのものもインターネット環境があれば容易に入手可能なので、気象通報をラジオで聞いて天気図を描いている人は、教育的な目的以外では少なくなっているかもしれません。

ラワーグ測候所は、7名程の職員が24時間体制で、

3時間毎の地上気象、毎時の航空気象、1日2回の高層気象観測等を行っています。フィリピン標準時で11時（協定世界時03時、日本標準時正午）の地上気象観測データが、日本の気象通報に使われる場合があるのを、観測に従事している職員は知りませんでした。今回の私の滞在中に、ラワーグの気象要素が通報（気象庁のウェブに掲載）されることは無かったので紹介しておきましょう。「ラワーグでは、南西の風、風力2、晴れ、11ヘクトパスカル、29度。」ここ数日、晴天続きなのです。

今年のフィリピン各地は、雨季に入っているのに降水が少ない状況です。一方、梅雨の日本からは、豪雨や日照不足等の報道が伝わってきました。さて、この夏の天候がどうであったのか。「天気」に掲載される「日々の天気図」や「気候情報」等も活用して、帰国後に振り返ってみたいと思います。

（城岡竜一）